

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



木工品などの各ブースを見定めながら、テントの前を行き交う来場者

「木づかいで減らそう大気^{けま}のCO₂」をテーマに「水都おおさか森林の市2010」が、10月9日（土）と10日（日）の2日間、近畿中国森林管理局周辺の毛馬桜之宮公園とOAP前広場の会場で開催され約1万5千人の来場者がありました。

初日は前日から降り出した雨のため、来場者も少なく、出展者の方も、手塩にかけた木工品の数々が雨に濡れる心配をかかえながら我慢の1日でしたが、2日目は予報よりも早く雨が上がり、盛大に開催することができました。ステージは、OAPの会場のため雨に影響されることなく、プロやアマチュアの方の演奏や木製品のオークションなど賑やかに行われました。

「森林の市」は今年で24回目となり、実行委員会形式での開催になって4回目になります。このイベントは出展者、ボランティアのスタッフのご協力を得て開催しており、来場者から「秋の行事として毎年楽しみにしている」との声を数多く聞かれるなど息の長いイベントとなっています。

この「森林の市」の開催を通じて、都市住民の皆様にも温暖化の急速な進行による森林の危機など考えていただくよい機会となり、木のぬくもり、林業や森林生態系の維持管理の重要性について、理解を深めていただくことができました。

木づかいで減らそう大気
CO₂

水都おおさか森林の市 2010 催し物の紹介（一部）



オープニングセレモニーで三宅実行委員長による開会の挨拶



大阪市立扇町総合高等学校吹奏学部によるマーチングパレード



親子で椅子作りコーナーで手伝いをするスタッフ一同



森林技術センター職員が苗木を植栽して作ったオリジナル竹鉢



木製積み木ひろばで遊ぶ子供達



のこぎりを使い丸太切り体験をする小学生



ドラゴンボートに乗船し、大川から森林の市の様子を拝見



親子でスタンプラリーのポイント地点探している様子

地域ニュース

低コスト造林（セラミック苗）技術の普及に向け現地検討会を開催

【森林整備課】兵庫森林管理署管内の河原山国有林において、管内の府県行政関係者、林業事業者及び森林管理署造林担当職員など、総勢約 140 名による「低コスト造林現地検討会」が開催されました。

冒頭、本村近畿中国森林管理局長から、「木材価格が低迷する中で、伐採跡地への植栽が行われず放置された山が増加していることから、低コスト造林技術の開発・普及が課題と考えている。こうした中で、セラミック苗による低コスト造林現地検討会を開催した。」との挨拶がありました。

セラミック苗は、土を高温で焼いた細い筒状の陶器（セラミック）に樹木の枝を挿し木したもので、保湿性に富み苗木の活着・生育も優れています。

植栽方法は、誘導棒で穴をあけ、これにセラミック苗を挿し込むといういたって簡易なもの。



セラミック苗の植え付けを体験する参加者



セラミック苗



参加者が質問をしている様子



簡単に苗木を植栽

セラミック苗による植栽は、速水林業（三重県紀北町）で行われており、活着率と成長の早さ、苗木の生産期間が短い（数ヶ月）、軽量で運搬コストの低減、植栽能率のアップ（700 本／人・日）などの実績等を踏まえ、近畿中国森林管理局管内における低コスト造林技術の一つとして、今後開発・普及を図ることとしています。

検討会参加者の多くが、セラミック苗を見るのは初めてであり、「非常に簡易な植栽方法であるが実際に活着するのか」、「苗木の単価はいくらか」など、活発な意見交換が行われました。

今後、当局では、植栽工程や活着及び生育状況の調査などを行うとともに、新たな低コスト造林技術を普及していきたいと考えています。

『高野山古事の森』育成活動～歴史探訪と木造建築物見学会の開催～

【和歌山森林管理署】高野山古事の森育成協議会と和歌山森林管理署は、「高野山古事の森」の広報活動の一環として、高野山内の歴史的文化財の見学を通して歴史や木の文化に触れてもらうため、活動の支援をいただいているボランティア等参加者 21 名による「歴史探訪と木造建築物見学会」を開催しました。

「高野山古事の森」は神社仏閣など歴史的な木造建造物の修復に必要な特殊な大径長尺材等の供給を目的に 200 ～ 400 年生の森づくりをするため、高野山古事の森育成協議会と和歌山森林管理署が協定を締結し、平成 16 年に高野山国有林に設定したものです。植栽から 6 年経った高野六木（スギ・ヒノキ・アカマツ・ツガ・モミ・コウヤマキ）は、ボランティアや協議会関係者による下刈りの労によりすくすくと生育をしています。

下刈作業がひと区切りとなったことから、育成協議会での話し合いの結果、古事の森に係わる活動を継続していくため本見学会を企画しました。見学会では、総本山金剛峯寺や和歌山県文化財センターの協力のもと、約 170 年ぶりに再建される弘法大師が真言密教の道場として開創した「大伽藍」の「中門」予定地、その再建用材と伐採跡地、源頼朝の菩提を弔うために創建された「金剛三昧院」の解体復元作業などの国の史跡、国宝、重要文化財を見学しました。



約 2 時間の見学会ではありましたが、普段では見聞することのできない体験に参加者は「歴史」と「木の文化を継承する森づくりの必要性」について改めて認識を深めた、暑い夏の日となりました。

関連ホームページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/wakayama/>

★ボランティアによるシカの食害防止のためのラス巻きを実施

【三重森林管理署】大台ヶ原に隣接する大杉谷国有林で、一般から募集したボランティアにより、シカの食害を防ぐために幹の部分に薄い金網（ラス）を巻く作業を行いました。

新聞に募集記事が掲載されたため新規の参加者も多く、早朝からの出発にもかかわらず、三重県内を中心に40名近くのボランティアが集まりました。



雨の中、雨合羽を着て「ラス巻き」をするボランティアの方々

シカがササを食べたため^{しゅうたん}絨毯状になった箇所や稚樹を守るためのパッチディフェンスの説明をしながら現場に到着し、ラスを取り付ける作業に取りかかると、用意していた300枚のラスが1時間たらずでなくなりました。

ボランティアの方は自分がやった行為で自然が守られているという思いに満足感を得るとともに、「環境問題を考え直すきっかけになった」、「多くの人に実態を知ってもらう必要がある」という声が聞かれ、今後も継続することが強く求められました。

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/>

★「アサヒ森の子塾」が開催され 広島北部森林管理署が協力

【広島北部森林管理署】アサヒビール株式会社・アサヒの森環境保全事務所主催の「アサヒ森の子塾」が開催され、広島北部森林管理署も協力しました。

予定していた現地活動は雨天のため中止となり、近くの体育館に移動。

庄原市立庄原小学校6年生64名と庄原市立峰田小学校5・6年生10名合計74名が屋内授業に参加し、広島北部森林管理署から職員2名が参加しました。

児童達は、アサヒのスタッフによる「森の子体操」、「ノルウェーが開発した環境プログラム」「丸太切り体験」などを行った後、署職員による「森林からのおくりもの」の紙芝居をみて、森林の役割や大切さを学びました。

午後は署の森林インストラクターによる、ネイチャ

ーゲームを行いました。

動物の特徴のヒントを質問して動物の名前をあてる動物ヒントゲーム「私は誰でしょう」と、生物多様性と食物連鎖の関係を分かり易く説明するため森林に生



職員が生徒の前に熱意のある講義、心と体で体感するネイチャーゲームを指導

息する動物たちを例にとり、目かくしをしたキツネ役がウサギの足音や気配などを五感で見つけタッチする「天敵と獲物」を指導し、歓声のなか、約1時間余りを過ごしました。

最後に「アサヒ社有林と森林管理署が管轄する国有林は、生物多様性を維持するためにも、間伐を必要としており、そこには食物連鎖が絶えず行われている」と説明し終了しました。

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/hirosimahokubu/>

お知らせ

くるぞうたに

黒蔵谷森林生物遺伝資源保存林を望む
熊野の森・秘境林道エコツアー募集

1. 実施日：11月21日（日）
2. 集合：JR 紀伊田辺駅 8：00
3. 解散：JR 紀伊田辺駅 16：30
4. 募集人数：30名
5. 対象：小学3年生～（小学生は保護者同伴）
6. 参加費用：ひとり5000円（バス代、保険料など）
7. 申込締切：11月15日（月）
8. 申し込み・問い合わせ先
熊野百間溪谷自然学校
TEL/FAX 兼用 0739-49-0434（10時～17時）
近畿中国森林管理局 指導普及課 緑の普及係
TEL：050-3160-6753（平日9時～17時）
9. 申し込み方法：FAX・Email・葉書に名前・住所・電話番号・前、後泊と弁当の要不要を明記しお送り下さい。
★申し込み順に要項を記した参加葉書をお送りします。
詳細につきましては、下記アドレスよりご覧下さい。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/fureai.html>